

(様式1)

平成29年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進	学校整理番号	9
(2) 現状と課題	「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、徳・智・体の調和がとれ、単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。年々、受け身の姿勢が強くなっていることから、主体的に学んでいく生徒を育てる体制を整えていく必要がある。また、高い志を掲げ困難に挑戦していくことができる生徒を育み、地域の重点校としての期待に応えていく必要がある。	学校名	青森県立弘前高等学校
(3) 重点目標	1 確かな学力を育成します 2 豊かな人間性と社会性を育成します 3 キャリア教育を推進します 4 重点校としての基盤整備をします	全日制の課程	校舎・分校
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載する。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。	自己評価実施日	平成30年 1月30日(火)
		学校関係者評価実施日	平成30年 2月 5日(月)
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		学校評議員(5名) 有識者同窓生 1名、卒業生保護者 1名 有識者教育関係 2名、現PTA役員 1名	

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度		
1	確かな学力を育成します	授業第一主義を徹底する 「学び」への姿勢と学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る 主体的に学び、考える授業を構築し、論理的思考力・応用力を育成する	生徒に身に付けさせたい力について、教員間で共通認識を持ち、授業力向上を目的とした研究授業、互見授業及び校内研修に取り組んだ。今後も授業改善に努めていく。	B	授業では教員と生徒との双方向のやりとりがあり活気があった。また、アクティブ・ラーニングは基礎学力のベースがないと成り立たないので、そのバランスをとって取り組む必要がある。	校内研修での教員アンケートでは、取り組みたいこととして「考えさせる授業」とそのための自己研鑽に励みたいと回答していることから、校内外の研修に積極的に参加させ、さらなる指導力向上を図っていく。
2	豊かな人間性と社会性を育成します	自律の精神を培い、基本的な生活態度を確立させる 部活動、自治会活動、ボランティア活動を通して逞しい心と体を養う 文武両道を追究し、何事にも失敗を恐れず果敢に挑戦させる 伝統・文化を尊重する姿勢を育み、異文化への理解を図る 思い遣りの心を育てることを通して、リーダーとしての資質を涵養する	弘高ねぶたの制作や運行の経験は、協同することで育まれる情緒豊かな人間性や責任感、地域文化の継承という意義があり、今後も大切にしたい行事である。このような体験や日常的な声がけにより、「規律ある自由」の基盤としての他人を思い遣る心を育み、情報モラル教室の実施などにより、いじめの未然防止にもつなげていった。	A	弘高ねぶたをはじめ他の行事でも生徒の自主性や主体性を重んじる方針は保護者にも共感され、地元の中学校にも伝わっているため、今後も大事にしてほしい。また、生徒減の中での部活動活性化は大変だが、週一回の休養日を平日ではなく土日に設けないと、先生方も生徒もともに負担が大きいのでは。いじめについては今後も未然防止に努めてほしい。	弘高ねぶたを核とした伝統行事は、徳・智・体の調和のとれた人材育成のための人間教育の柱として継続していくが、その制作過程において、より探究的なものにしていく。いじめ防止については、今年度中に「学校いじめ防止基本方針」を改訂し、より組織的・計画的な取組体制を構築する。部活動の在り方については、今後も検討していく。
3	キャリア教育を推進します	三年間を見通した進路計画の立案と実践 「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぎ、社会へどう貢献するかを考えさせる 自分を生かせる大学学部の研究を行わせる 自ら進路を決定できる態度を育成し、決めた目標に邁進させる	総合的な学習の時間を通して、生徒が課題を設定し探究したり、学部学科研究に主体的に取り組めるよう配慮した。進路計画は、内容を精査し、更なるキャリア教育推進を目指して改善していく。	B	生徒自身が調べて考えてきた将来像を尊重した上で、先生と生徒との信頼関係をベースとした指導・アドバイスで社会へ貢献できる人間を育ててほしい。	単に卒業後の進路にとどまらず、「総合的な学習の時間」を中心に各教科・各活動の内容を関連づけ、人間としての生き方や在り方も考えさせて「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を育成していく。
4	重点校としての基盤整備をします	青森県教育改革への対応と各種事業の実践 医学を志す高校生支援事業の充実を図る 国への教育改革への対応を通しての授業改善を図る	教育改革に関する研究・研修を実施した。重点校としての役割を認識し、各種の事業に積極的に取り組み、国際交流体験の発表会は各校に参加を呼びかけた。	B	安全安心も大事な基盤である。学校近隣の危険箇所を指摘すると直ちに対応していた。今後は自転車事故多発地などの情報提供と注意喚起が必要である。	今年度の事故の状況や通学路の危険マップを生徒に配布するなど事故防止に努める取組を強化する。また、重点としての責務を全職員で共有していく。

(11) 総括	重点校の教員であるということを矜持とし、生徒の高い学習能力にだけ依拠するのではなく、教材研究に裏打ちされ専門性を生かした「主体的、対話的で深い学び」となるよう、教員一人一人が自分の使命と責任を自覚して絶えざる資質・能力の向上に努めていく。また、教員間のコミュニケーションを重視し、熟練教員の知識や技能と若い先生の行動力をうまくリンクさせながら、一人一人の生徒を育てていく。
---------	--